

ヒューストンを後にし、約半年たちましたが、当時の写真を見ながら思い出したことを書きとどめておきたくなりました。

ヒューストンのアパートを引き払うとき、台所を片付けていたら出てくるわ出てくるわ、呑んだワインのコルク栓。全部取っておいたわけではなく、捨てたものもあるはずだから、いったいどれくらい呑んだんだろう。ほぼ毎週1本ないし2本のペースだったと思います。幸い、ジョギングでそこそこ消費していたから、体重はさほど増えずに、キープできてました。



N 通さんがアパートに来て、荷物をまとめ、日本の我が家に向けて出荷の運びとなりました。衣類や小物を、ジャンルごとに床置きしておいたら、端からどんどん箱詰めてしてくれました。航空便と船便の種別もしておきました。ゴルフバッグはスポーツ用品店の「Sports Academy」で格安品を新調。いままで20年近く使っていた（前回カリフォルニア駐在時に買った）ものを捨てて、交換しました。荷物は増やすまい、と心がけていましたが、やはりなんとなく増えた。アパートの部屋を出てすぐの廊下一杯に箱が積みあがりました。



青空の下、とおるさん家のオーディオクルードもは再び日本に向け旅立ちました。帰りはテキサス州を出て西部を目指し、ロサンゼルス港までたどり着いたらそこから船で一路日本へ、という旅路になるでしょう。ふたたび、しばしの別れであるぞ。

荷物を引き払い、空っぽになった部屋と、アパートの駐車場から望む、テキサス州立がんセンターの風景。この1年半、毎日慣れ親しんだ眺めですが、いよいよこれでお別れだ。



夏の盛りにお世話になったプール（下記左）と、外から見る部屋（右）も記念写真に収めておきましょう。



時は9月上旬のとある土曜日。テキサスの思い出、ということで、サテライト研究室の撤収支援のために本隊から駆けつけた若手同僚とともに、「リオ・グランデ」めざして、長駆メキシコ国境への遠征を敢行しました。その道すがらシャッターを切った、青い空・白い雲・果てしなく続く道。



リオ・グランデ、はきっと「大いなる河」を意味するのだろう、と想像しています。この河をはさみ、新大陸の覇権をめぐるさまざまな戦いが繰り広げられたことでしょう。その果てに、今は彼の岸がメキシコ、此の岸はテキサス、に分かたれています。次の写真は、国境に設置された税関施設です。テキサス側の地名は、「Laredo」といい、思いっきりメキシカンな街です。この税関のためには商店街が広がり、酒・衣料品・お土産・化粧品・貴金属類を売る店が軒を並べ、メキシコから来た大勢の買い物客で賑わっています。



来週の日曜日はいよいよ帰国便に乗ります。最後の週末、いつものジョギングルートに足を運びました。毎週、心と身体を癒してくれた道。決して絶景というわけでもなく、飛びぬけて空気がきれい、というわけでもあり

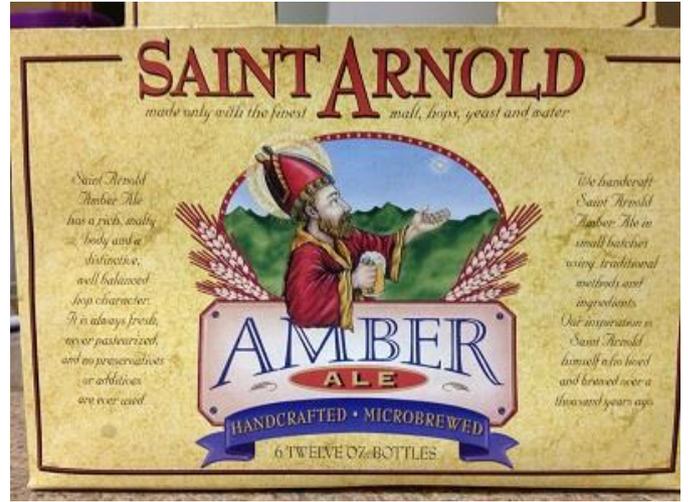
ませんでした。走りなれた道沿いは、この後も忘れがたい気分を呼び起こしてくれるでしょう。一期一会、
というのでしょうか。また会う日まで、ヒューストン。



アパートを引っ越した後、1週間強滞在したホテル。リライアントパーク近く、キッチン付きの宿でした。



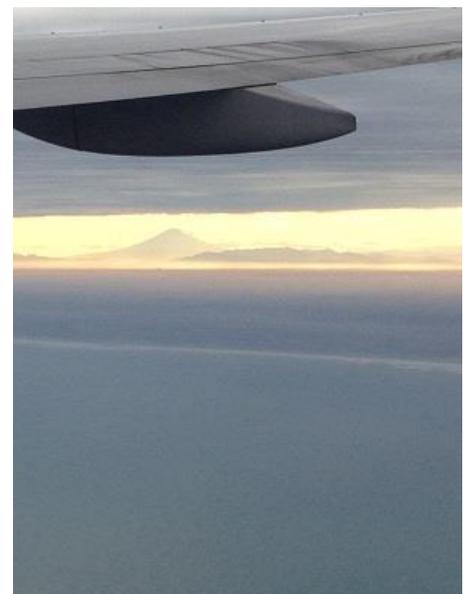
仲間と打ち上げの夜、テキサス地元のビールをいくつかテイスティングしました（左）。おまけで、毎日独酌のお供だった「Saint Arnold」。何種類かありましたが、一番の気に入りは Amber Ale でした。



テキサス・ヒューストン最後の朝。アパートのあったメディカルセンター地区から、ダウンタウンを抜け、レンタカーを運転してヒューストン国際空港（IAH）へ向かいました。



目的地成田は、台風 18 号の到来で荒れ模様とのこと。ヒューストン空港のラウンジで待機し、4 時間ほど遅れましたが、帰国便は無事離陸しました。ノンストップで成田上空に到着。機上から望む、筑波山（かな？）と、蛇行する利根川の眺め。続けてまもなく、初秋の夕日を浴びた富士山が見えてまいりました。



(以上、2014 年 4 月記す)